

家庭



家庭に於ける美的教育

一方に於ては『花より團子』などいつて、極めて没風流な、實利的な、非美的な俚諺を有て居ることとは居るが、一體からいふと、我國人は美の好尚が一般によく發達して居るといつて宜しからふと思ふ。美の好尚の發達しない人は、格別夫がために、例令ば道徳の發達しない人の様に、世に處することが出来ない譯ではないが、どつちかといへば、人品に餘裕がなく殺風景である。美の好尚

の發達しない國民は同じく國民としての品格に餘裕がなく殺風景であるといふ様な譯であるが、其點からいふと、我國人は、一體に風流な、美的品格を具備して居るといつてよい。世の進むに従つて、人は益々實利的となり没風流となるのは致し方がないが、其結果から考へると、頗る憂慮すべきであるまいか。

そこで、教育の方では、益々美的教育の必要が認められる。が併し、實利的傾向の盛な世では、學校などに於ける美的教育はどうしても比較的輕視せられるのは致し方がない。だから、家庭で、十分に此點に於ける缺陷を補ふことを勉めねばならぬ。

美的教育は、重に感情の方面に屬するから、家庭でも、主として感情的時代の幼兒の時から始めた

いと思ふ。此點からいふと、我國の家庭教育で注意すべき所が甚だ多からうと考へる。何故かといふに、身体や道徳や智識の側の方は、随分に考へられる様になつては來たが、我國民の一般の好尚ともいふべき美的の方面は、餘程忽諾にせられて居る様に考へられるからである。一家の主人など一幅の畫に、百金千金を惜しまない人も、子供の夫の爲めに少しも費す所はない。といつて、美的好尚を養ふことは、華奢贅澤といふと、は違ふ。そこで、吾等の希望する所は、家庭教育の時代に在りては、成るべく此方面の注意をも拂つて欲しいと思ふのである。彼の草花を培養させたり、顔料を供して圖畫を随意に畫かせたり、樂器を備へて音樂の趣味を養つたり、其他幼稚園でする様な種々の細工物などの材料を與へてやつたりするこ

となどは、之が方便として最も有効だと思ふ。

婚姻

谷川清

婚姻と一口に申しますと其の意義は明瞭であつて別段に説明を要しません様で御座りますが、事實上の婚姻は兎も角も法律上の婚姻も一寸理解り悪い處もありますから極く大略を記述致しませう。新民法第四編親族の第三章に婚姻に關する規定が掲載してあります、是等は後日時期を得ました節に順次記述致すことに致しまして、唯今は先づ婚姻の意義を説明致しませう。

夫と申しましたり、妻と申しますのも共に法律に適ふ即ち適法の婚姻に因りて創めて設定せられる所の男女間の身分を謂ふに過ぎないのです、然し